

ナバリスト 5

大久保 浩美 さん | 蔵持市民センター職員

おおくぼ・ひろみ ● 看護師やイラストレーターの経験を生かして、難病や障害のある娘と絵本を制作。昨年6月からは市民センターで広報紙やチラシ、ロゴマークを制作するなど、多彩な表現力を生かしながら人と人をつないでいる。



市民センターのイベントスタッフには、高校生や子育て世代の顔もたくさん



「NEW!!!」がテーマの昨年の市民センター祭で、新たなつながりが増えていった



娘と作成した2冊の絵本は、児童発達支援センター「どれみ」で閲覧できる

みんなの「得意」で、みんなハッピーに！

中学2年の長女は3万人に一人の難病を抱え、左半身まひの障害もあります。「やればできる」を体験させてあげたいと思い、小学校を卒業する際、娘が好きな絵本を親子で制作して、支援いただいた先生に手渡すことに。すごく喜んでくれたので、娘もとても嬉しかったようです。

そんな娘が小さい頃、よく面倒を見ていただいた人から「子どもの思いを大切にしながら」「子どもの手が離れた時、同じように、他の子どもを大切にしながら」などと言葉をかけてもらったことが忘れられません。

「子どもたちが集える市民センターに」という先輩職員の思いにとっても共感できたのも、その言葉があったから。昨年の市民センター祭では、中高生を含む運営スタッフが活躍したり、中学・高校の部活動とコラボしたり。今年の夏は、親子で楽しめるゲームやアート、科学実験、星空観察など、30近くの催しを繰り広げます。工作が得意な人、料理好きな人、自作のパズルを考えた人、ピザ釜をつくる人など、みんなの「得意」を合わせると、いろんなことが実現できるんですよ。

「私なんて…」という人も意外な特技があったりして、みんなに喜んでもらっているのを見ると、私まで嬉しくなる。地域に楽しい「つながり」を広げながら、「なんでもやる。くらもちやで。」というロゴを掲げ、みんなで盛り上がっているところです。

編集後記



名張のひと・活動

「なんとかなるなる。なばりです。」のロゴをパロディ化して、地域の活動を盛り上げていただけるなんて！皆さんの地域や団体で、オリジナルのロゴを作ったただののいいかも（たか）

平和学習で、戦争で生き残った人のお話の中に「生きるも地獄、死んでも地獄」との言葉が。複雑な記憶を抱えながら生き続ける思いを知り、今の生活のありがたさを実感しました（くま）

毎年恒例の青蓮寺湖観光村ぶどう狩り。「今まで○○園と△△園は行ったから、次は別の園で！」と、ぶどう園巡りを楽しむ人もいるんだとか。私もお気に入りの園を見つけないです（はる）

秘書室前で飼養しているオオサンショウウオの「弥助」が特定外来生物の対象に。職員からも市民からも親しまれている弥助を、この先も飼養し続けていきたいです（こ）

